

会社概要

(2017年6月30日現在)

- 社名 株式会社C&Gシステムズ (C&G SYSTEMS INC.)
- 設立 2007年7月2日
- 資本金 5億円
- 従業員 239名(連結)
- 本社所在地 (東京) 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー19F (北九州) 〒806-0067 福岡県北九州市八幡西区引野一丁目5番15号
- 本店所在地 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号
- 電話番号 03-6864-0777 (代表)
- 事業内容 金型製造用CAD/CAMシステム、生産管理システム等の開発、販売、サポート
- 主な拠点(国内) 東京支店、北関東支店、名古屋支店、大阪支店、九州支店 (海外) インドネシアテクニカルセンター

株主メモ

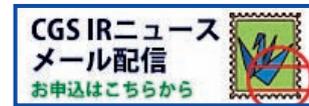
- 事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 毎年3月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当金 毎年12月31日
中間配当金 毎年6月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) ☎ 0120-782-031
- 公告方法 電子公告 (<http://www.cgsys.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 単元株式数 100株
- 上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)

C&Gシステムズ IRサイトのご紹介

当社への理解をより深めていただくため最新IR情報を掲載したIRサイトをご活用下さい。

IRメールニュース配信

IR関連情報を掲載した「CGS IR MAIL NEWS」を配信しております。メールアドレスご登録はCGSのIRサイトから！



個人投資家の皆さまへ

当社の事業内容、強み、業績等、当社の情報をまとめ、分かりやすくご紹介しております。



<http://www.cgsys.co.jp/jp/ir/>



決算説明会動画

株主の皆さまに広く当社の決算概要をご理解いただくため、社長の塩田による決算説明会動画を掲載しております。



会社紹介ムービー

当社で働く社員の様子、ユーザー様のインタビューを交えた、当社の会社紹介ムービーをご覧いただくことができます。



11th Interim Business Report

第11期第2四半期 株主通信
2017年1月1日～2017年6月30日



世界を築く、創造のソリューション。

株式会社C&Gシステムズ

証券コード：6633

株主の皆さまには、いつも変わらぬご支援を賜り誠にありがとうございます。2017年12月期第2四半期の営業概況について、ご報告申し上げます。

2017年12月期第2四半期の業績は？

CAD/CAMシステム等事業が堅調に推移するも減収増益

当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は売上高が20億87百万円、営業利益が2億33百万円となりました。CAD/CAMシステム等事業においては売上高は前年同四半期比2.9%増、セグメント利益は前年同四半期比17.5%増の増収増益となりましたが、前年同四半期との比較で減収減益で推移している金型製造事業の業績をカバーしきれず、連結では売上高が前年同四半期比4.2%減、営業利益が前年同四半期比3.6%増の減収増益となりました。

(1) CAD/CAMシステム等事業

国内CAD/CAMシステム事業においては製品販売、保守売上ともに堅調に推移したほか、大型案件の売上計上、ものづくり補助金の執行に合わせた提案活動、販売代理店との協力関係強化に取り組みました。海外CAD/CAMシステム事業においては、中国に関し代理店を通しての販売に切り替えたことに加え、昨年伸ばした既存CADシステムの販売が本年度は低調だったことにより売上高が減少した一方で、拠点管理コストの低減が実現しました。またこのほか、インドネシア、ベトナム等で日系企業を中心に販売を伸ばし、これらの結果CAD/CAMシステム等事業では前年同四半期と比較して増収増益となりました。

(2) 金型製造事業

米国で展開する金型製造事業においては、前年度の第3四半期以降の受注状況に一服感が見られたこともあり、前年同四半期との比較において売上高は7割、セグメント利益は6割程度で推移いたしました。ただしこの業績推移は想定内であり、また米国の政権交代により懸念された貿易に関する障壁もこのところ楽観視され始め、下期の新規受注の活発化が期待されているところです。

2017年上期 営業部門におけるトピックスは？

海外では引き続きローカル販売拡大を目指す

国内では営業力の強化に向けた取り組みを開始

当社グループの海外販売は、従来主に日系企業の海外進出に

伴って、日本と同様の環境を構築し同様のものづくりを行うための支援をするのが主でしたが、近年では力のある海外ローカル企業に販売する機会も増加しております。ローカル企業への進出には現地スタッフによる営業活動、技術支援が不可欠であり、当社グループでは近年、その体制強化に努めております。まずは当社グループの拠点があるタイ、そしてインドネシアで体制構築を図った上で、他地域へ展開してまいりたいと考えております。

国内においては、営業力の強化を目指して、効率的な営業活動およびノウハウ共有化を支援する取り組みを開始いたしました。営業部門の全体的な底上げを図ることで、お客さまに対する当社CAD/CAMシステムを活用した問題解決手法を迅速に提案することが可能となり、ひいては製品販売の向上につながるものと見込んでおります。

2017年下期の動向は？

国内CAD/CAMシステム事業を軸に新規事業の展開を継続
通期業績予想の変更はなし

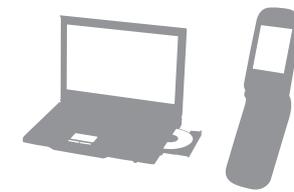
2017年下期については、引き続き国内CAD/CAMシステム事業が業績を牽引するものと見込まれます。既存CAD/CAMパッケージソフト販売および保守契約率の向上に加え、OEM製品の開発およびライセンス販売の強化、海外CAD/CAMシステム事業における技術代理店の育成、3Dプリンタ（積層造形）関連事業の育成等、新規事業の展開を継続してまいります。通期連結業績予想についても売上高42億17百万円、営業利益3億85百万円から変更はなく、また配当予想につきましても当初予想の期末配当10円からの変更はありません。

今後も世界のモノづくり分野において、「グローバル・ニッチ・トップ」を目指し、顧客満足度向上、ひいては企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社へのご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017年9月吉日

代表取締役社長
塩田 聖一



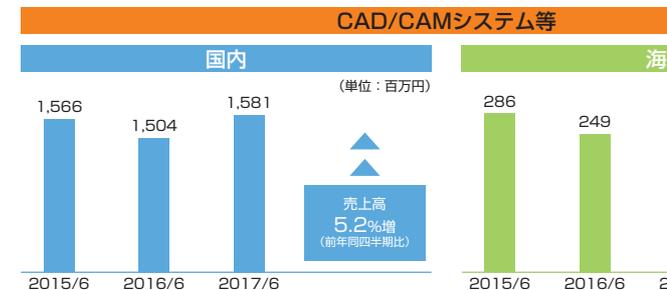
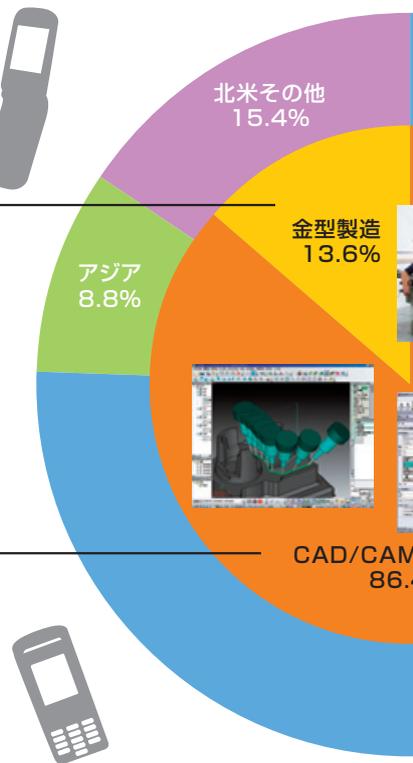
金型製造事業

北米を拠点に、自動車部品等の元となる金型製造の請負、および関連設備の販売・輸出入を行います。



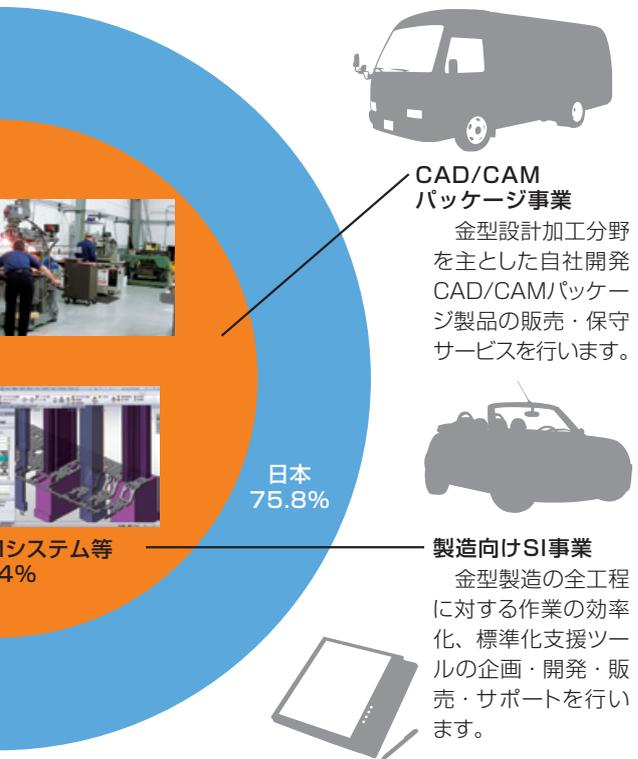
OEM事業

金型関連市場、隣接市場等に対し、既存のコア技術を戦略的に提供することで新規ビジネスの創出を図ります。



国内では販売パートナーとなる販社および生産財メーカー等との当社製品拡販のためのイベント共催を積極的に展開、当第2四半期においては特にプレス金型向け既存CAD/CAMシステムの販売が好調に推移したほか、製造業向け政府補助金関連の販売およびOEM関連の売上増加が収益に貢献しました。また保守売上も高い保守契約率を維持したことで、上期を通過して堅調に推移いたしました。

海外ではインドネシア・推移いたしました。中国を通しての販売に切り替えたプレス金型向け既存CAD調に推移したことなどからは11.0%の減収となりました。また中国減されたことなどから営業



**CAD/CAM
パッケージ事業**

金型設計加工分野を主とした自社開発CAD/CAMパッケージ製品の販売・保守サービスを行います。



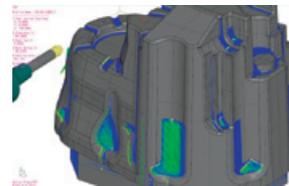
製造向けSI事業

金型製造の全工程に対する作業の効率化、標準化支援ツールの企画・開発・販売・サポートを行います。



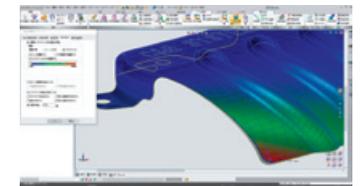
「CAM-TOOL」最新バージョン「V13.1」リリース

2017年4月、金型用3次元CAMシステム「CAM-TOOL」の新版「V13.1」をリリースしました。未加工領域（ストック形状）の認識において新しい演算方法を採用し、3次元での形状再現性を向上させました。またユーザーから高い評価をいただいているオプション製品「サーフェスプラス」においてソリッド系CADの代表的な機能であるブーリアン機能（集合演算の和・積・差（除））を新たにサーフェス形状で実現しました。



「EXCESS-HYBRID II」最新バージョン「V2.1」リリース

2017年2月、金型向け2次元・3次元融合型のCAD/CAMシステム「EXCESS-HYBRID II」の新版「V2.1」をリリースしました。穴断面の運動を可能とする2次元作図機能、プレス曲げを意図した3次元モデリング機能、実用性の高い自由曲面変形を可能とする見込み変形機能等を追加し、金型設計を意図した直感的な操作を組み込むことで作業の効率化を図りました。



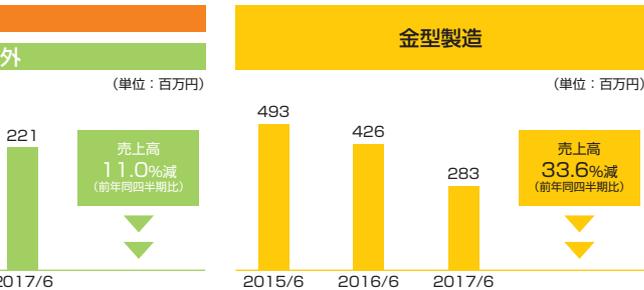
CGSグループ企業の紹介

CGS ASIA CO., LTD.



CGS ASIA CO., LTD. (以下、CGSアジア) は、2002年7月、タイ王国での現地合弁会社として設立しました。主な顧客層はタイに進出する日系企業ですが、近年ではタイのローカル企業への販売実績も増加しており、「Technology JAM」と題したタイ人ユーザー向けセミナーを年1回開催するのが恒例となっております。本年度は3月に開催し、主力製品である「CAM-TOOL」「EXCESS-HYBRID II」の機能提案を行い、好評を博しました。企画・運営すべて現地スタッフによる現地語で行われるセミナーは多くないとのことで、現地ユーザーにも大変喜ばれました。

CGSアジアはタイ国内だけでなく、周辺国の現地ローカルの金型メーカーの新規開拓、技術サポートおよび将来的には製品カスタマイズ等、CGSグループのアセアン戦略を推進する重要な役割を担っております。CGSアジアはこれからも、今まで培ってきた技術力を武器に販売拡大に努めてまいります。



金型製造事業は、北米での自動車生産を中心とするニーズが堅調に推移する中、新たな顧客開拓を目指し下期以降の売上につなげるための受注活動を行ってまいりました。しかしながら2017年下期の受注状況が低調に推移したことが影響し、好調であった前年同四半期との比較では33.6%の減収となりましたが、想定通りの推移となっております。

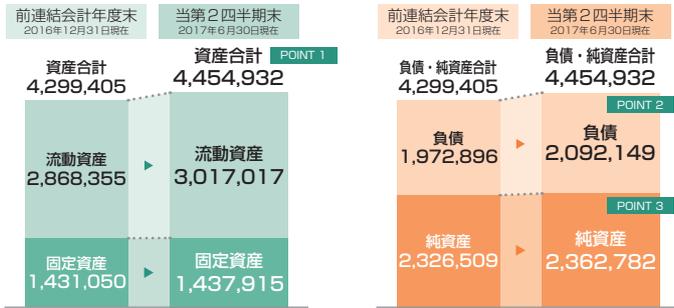


会社概要

社名 CGS ASIA CO., LTD.
 所在地 11th Fl, 191/83 CTI Tower, Ratchadapisek Rd., Klong Teoy, Bangkok 10110
 事業内容 タイ王国を中心とした東南アジアにおける金型用CAD/CAMシステムの販売・サポート
 設立 2002年7月

連結貸借対照表の概要

(単位：千円)



- POINT 1 資産の変動**
総資産は、前連結会計年度末と比較して1億55百万円増加し、44億54百万円となりました。主な増加要因は現金及び預金1億77百万円、主な減少要因は受取手形及び売掛金42百万円です。
- POINT 2 負債の変動**
負債は、前連結会計年度末と比較して1億19百万円増加し、20億92百万円となりました。主な増加要因は前受金1億26百万円です。
- POINT 3 純資産の変動**
純資産は、前連結会計年度末と比較して36百万円増加し、23億62百万円となりました。主な増加要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加1億43百万円、主な減少要因は非支配株主持分21百万円および配当による利益剰余金の減少98百万円です。

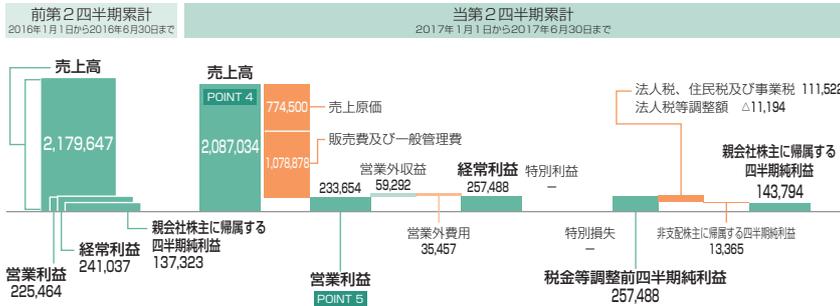
役員の内訳

(2017年6月30日現在)

代表取締役会長	山口 修司
代表取締役社長	塩田 聖一
常務取締役	伴野 裕之
取締役	寺崎 和彦
取締役	大野 聡太郎
取締役	春日 勝人
常勤監査等委員	佐藤 淳
監査等委員(社外取締役)	山田 英雄
監査等委員(社外取締役)	橋本 光

連結損益計算書の概要

(単位：千円)



- POINT 4 売上高の動き**
連結売上高は、前年同四半期比で4.2%減となりました。CAD/CAMシステム等事業は国内製品販売および保守売上のいずれも堅調に推移しましたが、金型製造事業が好調であった前年同四半期との比較で低調に推移したことが主な要因です。
- POINT 5 営業利益の動き**
連結営業利益は、前年同四半期比で3.6%増となりました。連結売上高は減少しましたが、金型製造事業の減収に伴う売上原価の減少および、中国における代理店販売への切り替えによるコスト低減、その他経費削減に努めた結果、連結営業利益は前年同四半期比で増加し、連結営業利益率は0.9ポイント増の11.2%となりました。

株式情報

(2017年6月30日現在)

株式の状況

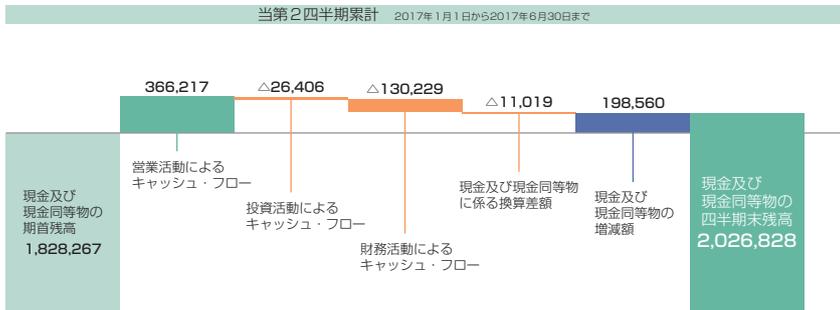
発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	9,801,549株
株主数	4,792名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社山口クリエイト	1,672,190	17.06
日本生命保険相互会社	459,740	4.69
山口修司	293,169	2.99
株式会社SBI証券	228,800	2.33
リズム時計工業株式会社	210,100	2.14
C&Gシステムズ従業員持株会	128,069	1.31
楽天証券株式会社	120,600	1.23
日本証券金融株式会社	102,800	1.05
株式会社兼松ケージーケイ	99,800	1.02
株式会社西日本シティ銀行	99,800	1.02

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

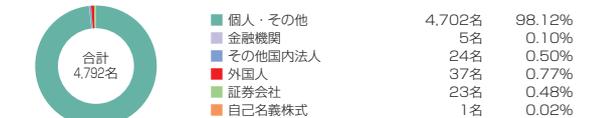
(単位：千円)



- POINT 6 キャッシュ・フローの状況**
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益2億57百万円および減価償却費79百万円等により、3億66百万円の増加となり、前年同四半期連結累計期間との比較では67百万円の増加となりました。
投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入1億17百万円、定期預金の預入による支出95百万円、無形固定資産の取得による支出33百万円および保険積立金の積立による支出3百万円等により26百万円の減少となり、前年同四半期連結累計期間との比較では28百万円の減少となりました。
財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いによる支出1億29百万円等により、1億30百万円の減少となり、前年同四半期連結累計期間との比較では12百万円の減少となりました。

株式分布状況

株式分布状況(株主数別)



株式分布状況(株式数別)

